



五穀豊穣を祈り 収穫と食に感謝 伝統文化の継承や農業の大切さを 伝える「献穀事業」



播種の儀で種粉をまく



献穀者の嶋田さん夫妻



守り続けた伝統 65年ぶりに合志市で

菊池地域献穀事業の清祓（きよはらい）祭と播種祭が5月27日、6月21日には御田植祭が行われました。菊池地域では10年ぶり、市内では65年ぶりです。献穀者を嶋田昭一さん、絹子さん夫妻が務めます。嶋田さんは「先祖から受け継ぎ、守り続けてきた田んぼで、このような役目を賜り感無量。就農50年目という節目でもあり、小さいころから関わってきた米作り。暑さや台風にも負けないように大切に育てたい」と決意を示しました。

事業の会長を合志市の荒木義行市長が、副会長をJA菊池東哲哉組合長が務め、地域の皆さんと見守り、10月に抜穂祭、奉告祭、10月下旬に宮中へ献上されます。

【献穀事業】

毎年11月23日、天皇陛下が執り行われる新嘗祭（にいなめさい：新穀を神々に供えて、収穫に感謝の奉告をされ、御自身も食される宮中行事）にお供えするための米と粟が全国各地の農家代表から奉獻されます。

この行事は、明治25年から始まり、令和7年度で133回目を迎えます。五穀豊穣を祈り、収穫と食に感謝し、伝統文化の継承や農業の大切さを伝える大きな役割を果たしています。

※献穀品：精米「ヒノヒカリ」 精粟「西原在来」



地域の子どもたちが田男・早乙女を務め
伝統文化に触りました

菊池地方の豊作を祈願

菊池市今地区の菊池神社献田で6月23日、御田植祭が行われました。神社奉贊会員やJA、行政関係者25人が参列。太田主の木下彰さんが栽培管理をして、12月17日の菊池神社新嘗祭に献上されます。菊池地方の豊作を祈願し、昭和33年から始まっています。



早乙女役のJA菊池女性職員と白丁姿の神社総代が「ヒノヒカリ」の苗を一株ずつ、丁寧に植え付けました